

午後1時零分再開

○議長（堀尾俊浩君） 休憩前に引き続き会議を開き、一般質問を続行いたします。

次に、10番中島秀樹議員の質問を許可します。10番中島秀樹議員。

（10番中島秀樹君登壇）

○10番（中島秀樹君） ただいま質問の許可を得ました10番議員の中島秀樹です。

久々にこの場に帰ってまいりました。16日日曜日は、非常に天気のいい日だったんですけども、夕方ぐらいからだんだん気持ちが憂鬱になってまいりまして、水曜日は一般質問なんだと、そろそろ準備をしないといけないなというふうに感じて、ここ二、三日はぐずぐずと過ごしておりました。

人間の脳というのは、気持ちいいことをしたがるというふう聞いております。ですから、いろいろと理由をつけてジョギングをサボってみたりとか、習い事に行かなかったりとかそういうところがあるそうです。

でも、今回の一般質問も久しぶりですので、なかなか緊張して、私としては心地よくないんですが、でも有意義な一般質問にはしたいというふうに思っております。林市長、中野副市長、それから石井部長と初めて議場で論戦を交わさせていただけると思っておりますので、非常に楽しみでもあります。どうぞよろしく願いいたします。

（10番中島秀樹君降壇）

○議長（堀尾俊浩君） 10番中島秀樹議員。

○10番（中島秀樹君） では、通告に従い質問をさせていただきます。通告は2項目です。

朝倉市の魅力を高め、人口減少に歯どめをかけるために何をすべきかというふうに大きなテーマを設けまして、1つ目が移動手段の確保について、2つ目が特色ある学校教育についてということを挙げさせていただきました。

順番に従いまして、まず移動手段の確保についてを質問させていただきます。

私は、4月の統一地方選挙で改選を迎えまして、議席をいただきました。選挙期間中でしたので、たくさんの方々とお会いする機会がありました。特に、告示後の1週間というのは選挙カーに乗って回りまして、道行く人、人を見つけたらば駆け寄って行って、「よろしく願います」と握手を求める。そういった1週間ございました。当然、告示前にもいろんなところで自分の考えを述べて、集会とかに話をさせていただきました。

その中で、必ず私が聞くように心がけていたのは、今の朝倉市にどういった不満がありますか、今の朝倉市の問題点は何だと思えますかということを知りました。そうすると8割ぐらいの方が免許を返上した後に、この市で暮らしていけるかどうかわからないというようなことをおっしゃられました。

印象的だったのは、美奈宜の杜でお話をさせていただいたときに、私は都会の喧騒が嫌でこの朝倉市に引っ越してまいりましたと、朝倉市は自然が豊かで、非常に暮らしやすい、人もいいところですよ。しかし、免許を返上したら便が悪いから、やっぱり便利のいい都

会に引っ越すつもりですと、皮肉ですねというふうに言われました。

私は、朝倉市の皆さんが不安に思っている喫緊の課題は、やはり朝倉市内、少なくとも、の移動手段を確保して、心配を取り除いてあげるのが住民の代表として、議員として言っていないといけない、訴えていかないといけないことだというふうに考えております。

私は、住民の方に、車の乗れるうちにバスに乗ってくださいということを、これから提唱してはどうかということを、まず1つ申し上げたいと思います。

車は、今はカーナビで、オートマで、半自動です。調べなくてもいいですし、楽になります。そして、車を降りてもそんなに歩かなくていいです。すぐ店舗のそばに駐車場があります。でも、車が運転できなくなったときに、交通機関があるからいいやと言って、カーナビとか、それからオートマであったりとか、歩かない、そういった人が、車が運転できなくなったからバスに本当に乗るんだろうかと、私は非常に疑問です。バスに乗れるうちにバスに乗ってもらうような政策を打たないと、移動ができない、家にじっといるだけのそういった人たちになってしまうのではないかと心配しております。

まず、お尋ねします。朝倉市は昔から陸の孤島と言われておりました。便の悪いところでございます。そういった表現がついて回りました。もちろんこれは都会から離れているという意味だったんですけども、交通の便が悪いというようなイメージがありました。朝倉市はずっとこの利便性の部分では変わっていないんじゃないかと思っております。ちょっと強い表現を使いますが、10年1日、長い状態がずっと変わらないでそのままになっているような、そういう状態ではないでしょうか。どのようにお考えでしょうか、お尋ねいたします。

○議長（堀尾俊浩君） 総務部長。

○総務部長（石井清治君） 今、議員のほうから言われました朝倉市の取り巻く交通関係の分につきましては、10年から変わっていないと。確かにいろんな面で、市の交通政策としましても定時で運行しております朝倉地域のコミュニティバスもございますし、それからあいのりタクシーを活用した9路線もございます。いろんな面でこういったふうな交通の空白地帯をなくす。最寄りのバス停から500メートルの間が空白をつくらないように、いろんな取り組みをこの間しております。

しかし、なかなか乗車率というのはのんでない。それは確かに朝倉市内の地域が広いこと、そして、県の平均よりも免許を保有する年齢がある程度高い、免許を保有している方が多いというところもありまして、そういうところを鑑みながら今現在公共交通を中心とした、目に見えたところで議員が言われますように顕著な伸びはございませんでしょうけど、そういう取り組みを今やっておる途中でございます。

○議長（堀尾俊浩君） 10番中島秀樹議員。

○10番（中島秀樹君） 車は今本当に便利です。カーナビは、私も方向音痴なんですけれ

ども、セットすれば間違いなくそこに着きますし、クーラーもきいていますし、快適です。ただ私は、朝倉市は車に過度に依存した、そういった地域社会になってしまっているのではないかというふうに思っております。

乗車率があまりよくないという総務部長のお話がありましたけれども、それだったら乗車率が上がるように、もっと主体的に踏み込んで、私は行政が誘導していくべき、踏み込んでもっと主導していくべきというふうに思っております。

運行业者任せの、そういった感覚になっていらっしゃるいませんか。言葉をわざと強く言います。モラルハザードを起こしてないですか。これは変わらない、まだやらなくてもいいと思っていられないませんか、どんなふうでしょうか。

○議長（堀尾俊浩君） 総務部長。

○総務部長（石井清治君） 先ほど言いますように、あいのりを含めたところで、毎年更新の際に利用者のアンケートをとっております。

平成29年災害時については、その状況がございませでしたけど、今あいのりタクシーもしくはコミュニティの路線バスを利用されている方の、そのアンケートの結果からも一番希望がありますのが運行日数の拡大、これは日曜、祝日の運行あるいは毎日運行してくださいと。

それから、運行便数の増便。

次に、自宅近くまでのコースを設定していただけないでしょうかと。

本来、皆さんが希望しますのは、一般的には定時運行というのを、ある程度聞き及んでいるかと思いますが、利用者のアンケートから見ますと、定時運行は順位が下のほうになっていますということで、先ほど言いますように、当然業者、事業者任せという判断ではなくて、利用者の立場に立ってアンケートも確認しながら、そういうのを鑑みしながら事業者とのやりとりをして、そこあたりに留意するよということ現場サイドのほうでは動いているところでございます。

○議長（堀尾俊浩君） 10番中島秀樹議員。

○10番（中島秀樹君） 議場でですね、市の問題点を話し合っ明らかにするというのが、私はやっぱり議会の大事な部分だと思います。

今、総務部長がそういうふうにおっしゃるんだったらば、便を拡大して増便すればいいじゃないですか。私はそう思うんですけども、それができないのはなぜですか。

私は、市民のニーズが一番あるというふうに肌で感じております。足で聞いて回って、そういうふうに感じております。それだったら、そのニーズに応えたらいいんじゃないですか。なぜできないんですか。

○議長（堀尾俊浩君） 総務部長。

○総務部長（石井清治君） 確かに予算的なことを先に出すと、それはもう火を消すことになりますので、実際先ほどから言いますように、あいのりタクシーあるいはデマンドバ

ス等に対して、当然デマンドであれば先に予約をいたします。予約をして、予約がある路線については、そのルートを通りながら行きます。この部分も確かに低うございます。実際定期ルートの部分を通る場合においても10人乗り、9人乗りという形の中で、そこに本当に満車になっているかというの、実際実績の中で上がっております。

言いますように、増便をすればいいじゃないかと。確かに増便をしたとしても、その時間帯もしくはその区間の中で、本当に利用者がそのバスを利用するのかというのを、しっかりまた把握しなければならないと思っておりますので、ここについて、この場でじゃあ増便しますという答えも当然持ち合わせておりませんし、費用のこともありましようし、そこあたりについてはいつも言いましようけど、交通の計画等もございませうし、その協議する組織もございませうので、そこあたりの中でそういう動向については協議を重ねていかなければならないという認識におります。

○議長（堀尾俊浩君） 10番中島秀樹議員。

○10番（中島秀樹君） 議論をわかりやすくするために、今、総務部長のほうからデマンドバスというのが出ましたので、デマンドバスを中心に議論させていただきたいと思っております。

私も今回4期目の議員になりましたので、やはり経験を積んだ議員として予算のこと、費用対効果、B/C（ビー・バイ・シー）のことは考えてないといけないというふうに思っております。

そういった中で、まずデマンド型バスに関しては、幾らぐらい予算を使っているんでしょうか。これをまず市民の前に明らかにしたいんですけど、数字を持ち合わせてあればお答えください。

○議長（堀尾俊浩君） 総務部長。

○総務部長（石井清治君） 予算ベースであります。年間5,000万円という予算の計上をしております。

以上です。

○議長（堀尾俊浩君） 10番中島秀樹議員。

○10番（中島秀樹君） 5,000万円という数字をお聞きいたしました。私が住んでいる地区は長湊線のデマンドバスが走っているんですけども、確か往復で7便でございます。これを仮に使い勝手が悪いからということで14便にふやしたとします。倍にいたします。そしたら、私の考えだと物事というのは固定費の部分がありますので、仮に全路線を倍にしたとしたらです、5,000万円が1億円には私はならないんじゃないかなと思うんです。7,000万円ぐらいとかそれぐらい、1.5倍とか1.4倍とかそれぐらいで市民の希望に応えられて、しかも優先順位1番の、と私は認識してるんですけども、そういう政策であればやってみる価値はあるんじゃないかと。

今、使い勝手が悪いということで、あんまり市民の方が乗らないという負の連鎖、負の

サイクルに入っていらっしゃるんじゃないかなと心配しておりますが、仮に便を倍にしましたらば、費用的には倍になるのでしょうか。まずこの点をお尋ねいたします。

○議長（堀尾俊浩君） 防災交通課長。

○防災交通課長（二宮正義君） 議員お尋ねの件なのですが、直接的には長洲線ではございませんが、コミュニティバスが10路線ございます。この中で馬田線、福城線、杷木東部線がタクシー車両を使って運行しております、10人乗りではございませんで。これを定時化することになりますと、タクシーの利用がバスということになりますので、まずこれがかなりの費用負担の増加になります。

それと、今現在デマンド、予約があって、時間は決まっておりますけども、予約が一切ない路線については運行していません。その稼働率で申しますと大体45%程度、朝倉地域コミュニティバスを除きますと35%程度の運行稼働率でございます。それでありますので、仮に増便、倍増したとしても現状の状況では利用者が、今でも45%とか35%でありますので、飛躍的に伸びるとも考えづらくて、経費の増大だけがふえるのではないかと危惧をしているところでございます。

○議長（堀尾俊浩君） 10番中島秀樹議員。

○10番（中島秀樹君） 稼働率が50%未満ということで出ましたけど、これではやっぱりいけないんじゃないですか。もう少し稼働率を上げるような、そういった努力、私は単純に増便したらふえるんじゃないかというふうに申し上げましたけど、費用的な部分もあって厳しいということであれば、もっと別のことを考えないといけないんじゃないかと思えます。

こういった意見もございました。デマンドで予約するのが面倒くさいと。だったら、便数を半分にしてもいいから、定時で走らせてくれという意見も幾つかいただきました。

例に出されたのが、筑前町の大己貴神社の前に公園がございまして、そこにやはり筑前町のコミュニティバスが走っておりまして、そこは日に3本でした、見に行きましたら。ですけれども、年寄りも時間的に余裕があるから、日に3本でもいいんだと、これはお年寄りの方から聞いた意見なんですけども。

ですから、定便化してほしいと、使い勝手がとにかく悪いと、そういった意見が多ございました。

稼働率を上げるためにどういった努力をしておりますか、これが1点目の質問です。

2つ目が、デマンドが非常に市民に不評ですので、何かこの不評を拭う努力をしておりますでしょうか、お尋ねします。

○議長（堀尾俊浩君） 総務部長。

○総務部長（石井清治君） 改善の部分、このことについては特に路線の部分で平成30年度に取り組みましたのは福城線、福城線の中で世帯数の多いある地区につきましては、そのこの集落内を抜けて、ルートを変更しながら、あわせて甘木市の市街の中央バス停までを

經由するような変更、要は利用者側に立って、少しでも大きい集落、利用者の多く望まれるところについてはそういう変更をしたり、あるいはこれは黒川線です、黒川線につきましては、新しく若市バイパスが抜けましたものですから、ここについてはフリー乗降区間を設けたと。当然、そういうふうで、そこあたりで利用する方をふやそうじゃないかと。

さらには、これは平成29年度ですけど上秋月・安川線の部分の中で甘木地区の双葉町、以前がバス停まで遠いということで、地元のほうからいろんなお願い事がございました。上秋月・安川線の部分が双葉町のコースをとるというところの中で、その分について少しでもできないかということをやっております。

そういうふうに少しではございましょうけど、そういう取り組みの中で、一つ一つ利用者のほうの立場に立って、利用しやすいようにしておるところでございませう。

もう一つ、デマンド交通の部分として定時運行の声が多いということでございませう。先ほど議員が言われますように、予約をしなければならない、最低でも1時間前までにはしなければならない。当然そこあたりの部分が、気軽に定時運行をされとけば、その時間帯にそこに行けばいいのかもしれませんが、もしこれは反対の意見になりますが、定時運行ではなくデマンドというのはそういったふうで、予約の部分もある程度通勤とか通学、あるいは病院とか行く、長期にわたって利用される方がおられましたら長期の予約をする。そして、使わないときだけに連絡をする、もしくはグループで予約するときについてはグループの代表の方が予約をする。あるいは家族の方であれば、家族の誰かがキャンセルをするとか、そういうものもありますし、デマンドということでもし目的地、ルートの中で早くその場所に行けるという利便性もあって、ずっと定時として周遊するのであって、ある程度送達性といいたいまいしょうか、目的地に早く行けるといいうのもありまして、一長一短ありまして、決して中島議員のほうと言われることに対してどうのこうのございませうけれども、まず現状を踏まえた上で、今現在そこあたりが望ましいということで、今現在はそれで推移しておりますのでよろしくお願ひいたします。

○議長（堀尾俊浩君） 10番中島秀樹議員。

○10番（中島秀樹君） 改善はいろいろ努力をいただいているというのはよくわかりました。その中で、定時化の部分で総務部長のお話を聞いてちょっと思ったんですけれども、乗っている乗客の層といいますか、要するに若者が乗っているのか、年配の方が乗っているのか、主婦が乗っているのかとか、そういうのが捉えきれないのではないかと。

私は、どうしてもお話を聞いたのは年配の方が多かったものですから、予約をするのが面倒くさいという意見が多かったんですけれども、学校に行く方もいらっしゃるというような答弁がございましたけれども、そこら辺のどういった客層が乗っているという年齢層別とか、数は多分捉えていらっしゃると思うんですけれども、メインターゲットとなる乗客が誰か、コアの乗客が誰かというのは把握してらっしゃいますでしょうか、お尋ねいたします。

○議長（堀尾俊浩君） 防災交通課長。

○防災交通課長（二宮正義君） 利用者の約90%は65歳以上の方でございます。

○議長（堀尾俊浩君） 10番中島秀樹議員。

○10番（中島秀樹君） 65歳以上の年配の方と思います。やはり予約が面倒くさいという声の一方、予約をするのも面倒くさいけれども、キャンセルするときもまた電話しないといけないから面倒くさいと。どっちか一方、キャンセルのときぐらい何か簡単にできんだろうかというような意見もあって、面倒くさいというのは非常にぜいたくな言い方なのかもしれないけれども、ただ使い勝手が悪いといいますが、65歳以上のコアな乗客のニーズに私は合っていないんじゃないかと思います。

これを合わせるようにもう一工夫何かできませんでしょうか。キャンセルのときぐらい別の方法で何かできるというのは考えられませんか。こういった声があるということ、まず議場でお伝えしたいと思うんですが。

○議長（堀尾俊浩君） 総務部長。

○総務部長（石井清治君） 確かに指摘あるいは論点になっています煩わしい、結局65歳以上の方が90%の乗降者ということでございます。いろんなことで乗ってもらいたいという行政側の思いはありましようけど、そういうところの中でのもう一步踏めないかということでございますが、この場で、当然今までも担当としまして、市としまして少しでもこの公共交通のあいり、もしくはデマンドのほうの乗降者をふやそうということについては考えておるところでございますが、妙案ということについてはなかなか今手探りの状態、今現在がこの状態ということでございますので、きょうここで中島議員のほうから承った分については、どうしますということをはっきり言えません。しかし、そういう声もあったということで、担当を含めて受けとめておきたいと思います。

○議長（堀尾俊浩君） 10番中島秀樹議員。

○10番（中島秀樹君） この議場でそういった声が届いたというだけでも私は議員として仕事のできたのかなというふうに思って、大変ありがたく思っております。

そういった中で、先ほどの話のちょっと続きになるんですが、コアの乗客というのが65歳以上の方が9割というふうに聞きましたので、ここがやはりメインターゲットの人で、この層というのは確実に私は囲い込むといえますか、お客さんとして取り込まないといけない層だというふうに思っております。ですから、少しでもこの65歳以上の方々が使い勝手のいいような、そういった努力をこれからしてほしいというふうに思っております。

その一方で、冒頭に申し上げましたように車に乗れる人、要するにまだ車で運転していて、バスは待たないといけないから面倒くさいと、そういうふうにお感じになっている方もやはり年1回は乗ってもらうような、そういった努力を私はしていかないと、この地域内の交通の移動手段というのは維持が難しくなるのではないかというふうに思います。

日ごろ乗らない人に乗るような、そういった運動というのが必要になるというふうに思

いますが、私の考え、どんなふうでしょうか。そういった運動を行政が主導してやるべきというふうに考えますが、いかがでしょうか。

○議長（堀尾俊浩君） 防災交通課長。

○防災交通課長（二宮正義君） デマンドバスに限らないんですが、過去にも小中学校におきまして公共交通教室、切符の買い方とか、バスの乗り方教室を行っておりましたし、現在でも年1度は広報紙にその利用啓発を掲載しております。

また、商業施設のほうでもバスに乗ろうキャンペーンをやっておりますし、実際に近辺を乗っていただくようなイベントも行っておる状況でございます。

あと、地域のほうには出前講座を積極的に出ておまして、老人会、敬老会あたりにも、利用されたことがない方にもこういった予約の仕方なんですとか、そういった先ほど予約、キャンセルが面倒だという意見もありましたということだったんですが、実は長期事前予約受付制度というのも行っております、あらかじめ通勤、通学でずっと利用しますですとか、私は月曜日と木曜日に病院に行きますから、この便必ず乗りますというふうな長期的に利用されることが決まっていれば、業者のほうと事前に連絡をしていただければ予約の電話はなしに、議員のおっしゃいます反対ですけど、キャンセルのときだけ電話をしていただければ済むような制度も設けておりますので、1度の電話で済むというふうなそういったこともやっております。

○議長（堀尾俊浩君） 10番中島秀樹議員。

○10番（中島秀樹君） そしたら、二宮課長、地域公共交通会議というのがございますよね。それに多分出ていらっしゃると思うんですけども、その場で地域交通が活発になるように積極的に、主体的にかかわっていらっしゃいますでしょうか、お尋ねします。

○議長（堀尾俊浩君） 防災交通課長。

○防災交通課長（二宮正義君） 公共交通活性化協議会等交通会議のメンバーの中には、事業者さんを初めとして地域の方ですとか、コミュニティ会長さん、区会長理事さんを初めとする地域の方ですとか、運輸支局等参加していらっしゃってますので、その会議に事務局として参加しております、いろんな御意見をお伺いして、公共交通の施策に生かしていきたいと参加しております。

○議長（堀尾俊浩君） 10番中島秀樹議員。

○10番（中島秀樹君） もう釈迦に説法なんですけれども交通政策基本法、2013年12月施行です、その中に地方公共団体の責務というのがございます。読ませていただきます。

「地方公共団体は、基本理念にのっとり、交通に関し、国との適切な役割分担を踏まえて、その地方公共団体の区域の自然的、経済的、社会的諸条件に応じた施策を策定し、及び実施する責務を有する」というふうでございます。

もちろん日ごろのいろんな業務があらわれて大変だというのは重々承知しております。

しかし、朝倉が魅力ある地域であるためには、やはり住民が不安に思っている

課題を解決していくということは、私は絶対に必要なことだというふうに思っております。

私自身も高齢者ドライバーの方が事故を起こしたというニュースを見ますと、私もいつまで運転できるんだろうかとちょっと心配になりまして、私の自宅もどちらかという田舎のほうなものですから、本当に免許がなくて暮らしていけるんだろうかと私自身も将来を想像すると不安になります。

ですから、魅力ある地域、朝倉市であるためには、地域内の移動手段というのは、これからやはり住民のために確保してあげないといけないというふうに私は思っております。免許返上が近いかもしれない林市長、どのようにお考えでしょうか。お考えをお聞かせください。

○市長（林 裕二君） 実は、私は市長になりましてコミュニティバスに乗ってみたことがございます。朝倉市役所から県立病院まで乗ったわけです。そのとき一緒に乗っておられて、私を、こんなふうにしたら行き先がこうですか、どこを通って行きますとか、降りるときはこうしてくださいとか、そういった経験もございます。

今、議員がおっしゃっておられますように、まさしく高齢者による取り返しのない事故が多発をしているということ踏まえて、高齢ドライバーの中でやっぱり免許返上を真剣に考えて、返上する人が多くなったと。そして、国の政策としてもいろんなことが今打ち出されようとしているという段階でございます。

私は、議員が言われますように1回やっぱり乗ってみたらいいんだろうという御提案でありますけれども、非常に具体的に検討する必要があるというふうに受けとめさせていただきまして、今後とも今までいろんな形でデマンドバス等々のことは、広報紙を初め地域の会議とかいろんなところでやってまいりましたけれども、検討させていただいて、朝倉市の市民の人たちが、交通手段としてなるだけ心配がないように取り組みたいということで考えさせていただいたところであります。

○議長（堀尾俊浩君） 10番中島秀樹議員。

○10番（中島秀樹君） 市長が乗り合いバスに乗っていて、私ももし同席してもびっくりいたしますけど、でも格好いいですね。答えは現場にあり。現場にしか私は答えがないと思います。ですから、ぜひとも二宮課長、現場に足を運んでいただいて、答えを見つけてきていただきたいというふうに思っております。

そのためには、私はやはり数値目標が必要なのかなと思っております。KPIじゃないですけども、やっぱりある程度目標が必要だと思いますので、乗車率が50%未満はちょっとやっぱりお寒い感じがいたします。もう少し上げるように頑張りたいと思います。石井総務部長、どんなふうでしょうか、数値目標置くのはちょっとやっぱり難しいですかね、どんなふうですか。

○議長（堀尾俊浩君） 総務部長。

○総務部長（石井清治君） 先ほどより市長のほうが中島議員のほうにお答えしたように、

市長のほうもそういう答弁をされたということで、私どものほうについては今KPIについて何%というのは当然言える話でもございませんもんですから、当然改善に向けた取り組みという形の中で進めさせていただきたいと思います。

○議長（堀尾俊浩君） 10番中島秀樹議員。

○10番（中島秀樹君） ありがとうございます。

では、次の質問に移らせていただきます。特色ある学校教育について、地域人材の育成が必要であるということを質問させていただきます。

ふるさと創生というのが挙げられておまして、私はやはりふるさと創生というのは、今からのキーワードかなと思っております。済みません、地方創生です、失礼いたしました。

東京一極集中を是正し、地方の人口減少に歯どめをかけ、日本全体の活力を上げることを目的とした一連の政策でございます。そういった中で、地方人口ビジョンであったりとか、地方版の総合戦略とか、こういったものが出てまいります。

私は、よくいろんな資料で朝倉市の人口動向を見ると、2060年にはこれくらいになるとかそういった数字を見ると、非常に気持ちが暗くなるのを感じております。

私は、5年先、10年先を考えたときに、地域を活性化していくためには、人材を重視しなければいけないと思っております。朝倉市の将来のために必要な政策は教育だと思っております。1に教育、2に教育、3に教育だと思っております。

まず、私は、教育というのは大事だと思うんですけども、漠然とした質問で申しわけありませんが、教育長、教育というのが私は百年の計だと思っているんですけども、教育というのは朝倉市にとっても大変ですし、どういったものといいますか、私は重要なもの、とにもかくにも重要なものと思うんですが、どのようにお考えになっているか、ちょっとお聞かせいただければと思っております。

○議長（堀尾俊浩君） 教育長。

○教育長（宮崎成光君） 詳しいことについては、また部長のほうから、担当のほうから述べたいと思いますけども、今、教育委員会で考えておりますのは、これまで教育は、いい成績をとらせて中央に出ていく、その数が多いところがいい学校だというふうなことを考えた節がないことはないなというふうに思っております。

現在の状況を見ますと、自分たちのところが活性化するためには、後継者をどのように育てていくかというのが非常に大事だと思います。これは過去のこと、ちょっとこの議会でもお話したことがありますけども、自分たちのところの地域を生かして産業を豊かにする、この場合は農業ですけども、そういうふうなことを大事にしていくためには跡取り、誰が後継者となっていくかということ、意図的に家庭のほうも、それから学校のほうも意識して育てていかれたという時代がございます。その方たちが成人されたときに、それぞれのところで頑張って地域の産業を盛んにされてきた、そのいろんなものが今残っ

ているんじゃないかなというふうに思っています。

したがって、学校教育、今施策の中で目標に上げています高い志を持ってというときに、最終的には地域に誇りを持って、地域を愛して、地域を活性化する、そのような人物が育っていくことを願って、そういうことを取り組んでいきたいと。

学校ですので、いろんな勉強をしまして、成績がよくなるということは当然ですけども、何のために勉強するかという志のところ、そういうところを大事にする取り組みをしていきたいなというふうに考えているところでございます。

○議長（堀尾俊浩君） 10番中島秀樹議員。

○10番（中島秀樹君） 前途洋々たる若者、未来が無限に広がっております。そういった若者が大きな舞台で活躍をする、大都会東京で活躍をする、大阪で活躍をする、世界で活躍をする、これは誰にも止められないことだと思います。そこで自分の能力を生かして活躍してほしいと思っております。

しかし、もちろん地元で頑張ってもらってもいいんですけども、そういった大きな舞台で活躍した若者も、私は将来は朝倉に帰ってきてもらいたいなと思っております。それは、川で生まれたサケが大海に出て、そしてまた生まれた川に戻ってくるように、人材が還流したらいいなと思っております。

私は朝倉市の議員として、やはり朝倉市の人口減少が非常に心配ですので、若者の地域愛を育て地域人材の育成というのが大切だと思っております。人間性と実践力を備えた地域人材を育てる、これが私は大事だと思っております。そのためには、地元にいるうちの教育が重要だと思っております。地元にいるうちからの小さな積み重ねが、将来への地元の回帰につながると私は信じております。

そういった意味で、朝倉市の小中学校でどういった教育、特に地域愛とか地域で活躍をする人材とか、こういったところに焦点を当てると、どういった教育をなさっておりますでしょうか、お尋ねします。

○議長（堀尾俊浩君） 教育部長。

○教育部長（山南哲也君） 学校教育における地域人材育成、それから小中学校での郷土愛を育む取り組みという御質問だと思いますが、先ほど教育長が申しました朝倉市教育施策要綱に掲げます学校教育目標は、「高い志をもって可能性に挑戦し、地域に開かれた魅力ある学校づくり」ということでございます。その中で、「郷土に愛着と誇りを持ち、児童生徒・保護者・地域が自慢できる学校づくりの推進」を主要課題としております。

具体的には、学校ごとに地域の特色を生かしたふるさと学習、これに取り組んでおります。ふるさと学習は、地域の人々の協力のもと、児童生徒が住んでいる郷土の歴史、産業、それから伝統芸能を学ぶものでございまして、米づくりとか獅子舞などの伝統文化などの体験を通して郷土のよさを知ることができるようにしております。

また、中学校のほうでは、学校のふるさと学習で地域について学ぶことに加えて、中学

生が地域に足を運び、地域の人とふれあう取り組みも行われております。

その1つが職場体験学習、生徒は地域企業での職場体験学習を行いまして、地域の仕事を理解して、働く人々の志を学んでいます。

2つ目に、地域でのボランティア活動があります。郷土行事の参加にとどまらず、例えば会場の準備、後片づけ等にも、こういったものにも参画をしまして、地域とのつながりをもって将来地元の人材となりうる力量を身に付けております。

そのような取り組みの成果として、これは平成30年度実施の全国学力学習状況調査、この中に地域に誇りを持ち、地域の行事に参加している児童の割合という項目がございます、これ紹介させていただきますけど、小学校の全国平均が62.7%であるのに対しまして、朝倉市では80.1%と大きく上回っております。中学校では全国平均が45.6%であるのに対して、朝倉市では45.8%となっております。

児童生徒が将来朝倉に残り、地元の人材として活躍することにつきましては、これまでも取り組んでおりますけれども、今後も教育課程にふるさと学習を位置づけて、系統性を持った指導を行いまして、地域のことに関心を持ち、ふるさとを愛し、貢献したいと願う児童生徒を育てていきたいというふうに考えております。以上です。

○議長（堀尾俊浩君） 10番中島秀樹議員。

○10番（中島秀樹君） 朝倉市は特色のあるそういった地域の教育をしております、そういった人材が育っていくと思っております。地域で主人公になるような、そういった若者が巣立っていくと思っております。

ただ、私は一つ気になっている点がございます。朝倉市の特徴としましてダムが3つあるとか、それからインターが3つあるとか、そういったことを言われますけれども、朝倉市の特徴としてここは第7学区ですかね、朝倉市の中に3つの高校がございます。朝倉高校という普通科の進学校、それから朝倉東高校というビジネス系の高校、そして朝倉光陽高校とあって、これは朝農の流れをくみます地域の農業人材を担うような、そういった人材を多く輩出した高校で、特色のある性格の違う3つの高校があります。この3つの高校があるという、私はこれは朝倉市の強みだと思っているんですけども、これが活かされていないんじゃないかと。

要するに、きょうの大庭議員の質問の中でもありましたけども、中学校卒業してから朝倉市、行政としての若者へのアプローチというのが断絶してるといふふうに感じております。朝倉市は高校生の提言とかそういったことをやっておりますけれども、もうすこし朝倉市として若者にアプローチをして、あなたは地域人材なんですよ、サケなんですよ、将来は活躍してもいいから帰ってきてくださいと、こういったことを教育委員会であつたりとか、市長部局のほうであつたりとか、そういった仕組みをやっていくべきではないか。それが長い目で見て朝倉市の主人公となるような人材をたくさん生み出す有効な手段になるんじゃないかと思っておりますが、この点につきましていかがでしょうか。

○議長（堀尾俊浩君） 教育長。

○教育長（宮崎成光君） 今、議員さんがおっしゃっていらっしゃることを教育委員会の中でも話しております、先ほどの子どもさんたちの高い志の中で議員さんおっしゃってありましたように、中央に出て行く子どもさんもいらっしゃる、地元に残る子どもさんもいらっしゃる。そういう中で共通していることは何かと、ふるさとに対する思いを強くしておく。

外に出てもふるさとのことを忘れない、そしてふるさとと連絡をとりながらふるさとの活性化に貢献できる、そういう人材にしていきたいということを考えています。

地元のほうの活性化をするときには、私はまず伝統的にございました農業、それから商業、それと工業を考えています。この3つが地元が活性化していくためには必要じゃないかと。

この朝倉の地は、普通科は今朝倉高等学校がありますが、商業が朝倉東、それから農業が朝倉光陽になっています。そして、工業が浮羽工業になっていますので、この農業、商業、工業の学校と連携をとりながら、そのいろんな考えの中で子どもたちがいろんな体験をして、自分たちの郷土を活性化するために、全部行くことはできませんが、それぞれ行っている友達と協力し合いながらやっていく、そういうようなことを目指していくようなことをするにはどんなことしたらいいんだろうかということを、内部でいろいろ話しているところですが、そういうことを考えております。以上です。

○議長（堀尾俊浩君） 10番中島秀樹議員。

○10番（中島秀樹君） 一昨年の九州北部豪雨のときに、朝倉光陽高校が地域に大きな貢献をしたというのは、皆さんも御存じのとおりだと思っております。

私も時々光陽高校に足を運ばせていただくんですけども、いい学校だなと。やはり地域の誇りと言いますか、この光陽高校があるということで旧杷木町の地域の核としてやはりずっと、合併というプロセスは踏みましたけれども、朝倉という冠がついていい学校だなというのを感じております。

やはり学校というのは地域の顔でございます。ですから、そういった高校というのは、市長部局や教育部局の管轄外かもしれませんが、若者という切り口で捉えていただきまして、ぜひとも地域人材を育てるということでアプローチをしていただきたいというふうに思っております。

ものの本を読んでおられますと、4歳から9歳のときは頭と心をのびのびと育てる時期で、やんちゃながらいろんなことを経験して、自分の好きなことに熱中をする時期だと。そして、そういった自分の好きなことに熱中をしている体験が非常に大切であるというふうに書いてあります。朝倉市は、私はまさにこれ向いているなど、野山があつて、自然が豊かで遊び回れるところで、本当いいところだなというふうに思っております。

11歳から18歳のときというのは、じっくり考える力を養う時期だと。俗に言う思春期で、

大人の本音や物事の本質への関心が深まって、親の干渉をちょっと嫌がる時期でもあります。ですから、外部の師匠が大事だそうです。

ちょっといろいろ調べてみると、中高生が持つ人間関係の数と学習意欲の関係性を見ると、要するに人間関係、いろんな例えば友達であったり、親であったりとか、そういった人間関係がございますよね、それとか女友達とか、その数と、それと学習意欲の相関を見ると、勉強のおもしろさを教えてくれた大人の数であったりとか、将来の目標にしている大人の数、それとか尊敬できる大人の数、こういった要するに他人の大人の数というのが大事らしいんです。

私は、今の高校生とか若者は、非常に忙しくて、地域の大人とふれあう機会があんまりないんじゃないかなと思っております。

ここで私、ちょっと突飛な御提案なんですけど、中学校とかに市の職員が行かれて、いろいろ社会教育活動みたいな形で、朝倉市ってこんなとこだよとか言って教えたりしたら、これは朝倉市のことも勉強になるし、コミュニケーションもとれるし、将来の地域を担う、そういった人材になるんじゃないかと思えますけども、そういったことは市長部局としてはできませんでしょうか、お尋ねします。

○議長（堀尾俊浩君） 総務部長。

○総務部長（石井清治君） 中学生、うち6中学がございますもんですから、多感な時期の地元、郷土愛を醸成するためにも、市職員がそこに出向いてと、当然年間のカリキュラムもございましょうけど、出前講座みたいなことも視野にいれながら、まだやりますとか、やれませんかという判断は当然できませんもんですから、そこについては教育部局のほうともまたいろいろ話があると思えますので、まずはそういう中学生に地元を知ってもらい、そしてそういう機会を与えるというところの中の思いがあったということで受けとめさせていただきます。

○議長（堀尾俊浩君） 10番中島秀樹議員。

○10番（中島秀樹君） 突飛な質問で申しわけありませんでした。

では、中高の連携というところで、もちろん教育部局のほうは小中が専門だと思うんですけども、高校ともう少し密にとって、高校生の提言とかも実際にやっておりますので、地域人材を育てる、地域に愛着を持つ、地域で主人公になるという人材を育てる、そういった連携をもう一步踏み込んでやることはできませんでしょうか、お尋ねいたします。

○議長（堀尾俊浩君） 教育課長。

○教育課長（池田篤二君） 高校生の提言につきましては、高校生が考えます、それから今高校生が思っているところで市政に関して提言するような内容だと思います。

義務教育の段階にはそれぞれ発達段階がございまして、中学生がそこまでのレベルで同じように市政に提言ができるかというのは少し疑問を持っているところのございます。議員がおっしゃいますように、中学生が市政に関心を持つことはとても大事なことだと思います。

ますけれども、その辺はやり方を考えながら対応していきたいと思います。以上でございます。

○議長（堀尾俊浩君） 10番中島秀樹議員。

○10番（中島秀樹君） 確かに若者、小中学生にちょっとそういったことはまだ早いかもしれないけれども、ただ私は朝倉市の議員として、このふるさとをやっぱり守ってきたいというふうに思っておりますので、やはり人がいないと話になりませんので、若い人たちに地域で主人公になって活躍していただきたいと思っております。ですから、そういった意味では、何とか地域を育む人材というのを確保していきたいというふうに思っております。

地域創生とは、10年、20年先の地域を、未来を考える活動だというふうに考えております。しかし、市役所の皆様は、現実的には目の前に山積みの課題の対応に追われて長期的な活動に取り組むのは難しいかと、そういうふうに見ております。

しかし、そろそろやはりビジョンを市民の皆さんに示して、朝倉市の長期的なことも考えていかないといけない時期が来たのではないのでしょうか。道しるべを私は示すときが来つつあるのかなと思っております。消滅可能性都市にならないように頑張っていたいただかないといけないと思います。住民にエネルギーを与えるのは市の皆様、職員の皆様だというふうに思っております。私も議員として応援をさせていただきますし、職責を果たしていきたいと思っております。

以上で私の質問を終わります。

○議長（堀尾俊浩君） 10番中島秀樹議員の質問は終わりました。

10分間休憩いたします。

午後 1 時43分休憩